

泊まる

TOMARU



四国本島の最北端に建つ「あじ温泉 庵治観光ホテル 海のやどり」(0877-871-3314)。館内からは瀬戸内海の島々が眺望できる。宿泊だけでなく、午前11時から午後3時まで、満館でなければ、予約制の昼食付き日帰り入浴(3240円から)や日帰り入浴(大人800円、小人400円)の利用も可能だ。

見る

MIRU

城岬公園(しろばなこうえん)には石の彫刻が置かれている。しずくのような形の作品は「やがて愛の風が吹いてくる」。公園には、セカチューブムの定着を狙って「純愛ロード」が併設された。カップルで夕日を眺められるように、石のベンチもある。公園は「恋人の聖地」に選ばれ、ここから続く庵治緑道公園「やすらぎの道」にも石の彫刻が並ぶ。



買う

KAU



毎週日曜日午前8時〜9時半、魚市「活き活き日曜日」(庵治漁協0877-871-4131)が開かれる。当日とれた瀬戸内海の生きたタイやタコ、エビなどを販売。新鮮で市価より安いとあって、営業前から多くの買い物客が集まる。売り切れ次第営業終了。荒天で中止されることもある。

プレゼント

純愛の聖地庵治・観光交流館で販売している映画「世界の中心で、愛をさけぶ」のポストカードブックと、庵治石の写真立てをセットにして5人にプレゼントします。

ご希望の方は、はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、紙面の感想を書き、〒760-0018 高松市天神前2の1 朝日新聞高松総局「たのしこく係」へ19日必着でご応募ください。



純愛の聖地庵治 (高松市)



皇子神社の石段を上ったところにある「マン」。庵治漁港の向こうに独特な形の五剣山が見える



イラスト/香川法古



「えーとこ」人はさけぶ

台風が接近していた8月下旬。雨粒が窓をたたく。DVDで映画「世界の中心で、愛をさけぶ」(2004年、東宝)を見ていた。主人公と、病に侵された恋人は、台風で飛行機が欠航しオーストラリア行きを断念する。映画と今が重なって見えた。ロケ地の高松市庵治町に向け車を走らせた。

「世界の中心で、愛をさけぶ」は片山恭一さんが書いた恋愛小説。行定勲監督の手で映画化された。「セカチュー」ブームを巻き起こした。そのロケ地となった高松市庵治町は、高級な庵治石の産地だ。高松市役所庵治支所に近い庵治緑道公園「やすらぎの道」には、石の彫刻や石碑がいくつも並んでいた。



復元された写真館のセット。館内ではカフェも営業している。いずれも高松市庵治町

さらに北へ進むと、映画に登場した写真館が見えた。壁と入り口の窓には旧字で「雨平写真館」と記されている。映画では主人公のサク(森山未來)が、病に侵され

た恋人のアキ(長澤まさみ)と記念写真を撮った建物だ。撮影用に建てられたセットで、撮影後にいったん取り壊された。だが、復元を望む声に住民からあがり、東宝の協力で、倉庫跡に復元された。現在は、純愛の聖地庵治・観光交流館として、館内でカフェを営業(火曜定休)している。

「観光客から『建つてどのくらいたつたの?』とたずねられる」と、館長の滝内志保さん(48)。今年12月に復元から10年を迎える新しい建物だと説明すると、「がっかりするどころか、『東宝ってすごい』って、みんな驚きます」と笑った。交流館に展示されているスクーターも映画で使われたものだ。柵などはなく、「みんなまたがって記念撮影してます」と滝内さんは話す。

近所にある日用雑貨店「谷商店」は、映画では電器店として登場した。サクとアキが、携帯音楽プレーヤー「ウォークマン」をのぞき込む撮影に使われた。店主の谷晃一郎さん(67)は「若い2人の俳優は知らなかったし、まさか、こんなにヒットするとは思わなかった」と楽しそうに当時を振り返った。

交流館を出て、庵治漁港沿いに西へ歩いた。右手に見える鳥居をくぐり、石段を上った。小さな公園に、サクとアキが映画の中で乗っていたブランコがある。庵治漁港周辺が見渡せる。ブランコに揺られながら、しばらく漁港の先の五剣山の姿を眺めた後、王の下沖防波堤を目指した。埋め立て地から海に突き出る防波堤の向こうには、緑に包まれた台形の屋島があった。アキがあこがれたオーストラリアのアポリジニーの聖地ウルル(エアーズロック)にも負けない威容だ。

屋島、五剣山、瀬戸内海、そこに浮かぶ島……。庵治町に住む谷さんはこう言っていた。「今まで、普通の景色と思っていた。映画を通して地元の『えーとこ』を再認識した」(高橋孝二)

アクセス

純愛の聖地庵治・観光交流館まで、車の場合は高松自動車道高松中央インターチェンジから約30分。JR高松駅からは、バスターミナルで、ことடன்バス庵治線「庵治温泉行き」に乗り約40分で着く。庵治農協前で下車。